

テーマ 忘年会

○ 意義 年忘れの行事は古く 室町時代に始まる。12月下旬父母兄弟姉妹、親類、朋友を招き酒宴を催して、お互の一年間の無事を祝福し合つたそのことを年忘れといひ今日では忘年会と称している。

○ わらい 一年の隊、組、の活動をふりがへつて「反省と総まとめ」にした。それと同時に新しい年を迎える心構え、明日のスカウティングを通しての希望を確にした。

感謝 近年はクリスマス正月等相続く行事の為大人まで忘れかけている「去る行く年への反省」、「惜別」、「物事の終り」の重要さを理解させたい。又節走の忙しいこと、その年の仕事出来事等すっかり片付け感謝する。その為忙しい訳も知らせたい。

○ 実践 岡本部の清掃奉仕、感謝の礼拝、家庭での御手紙、寺を合のでの隊組の集会計画

家庭 正月を迎える準備も終つて夜紅白歌合戦の始まる前、仏壇に燈を捧げ一年の無事と生かされている事を感謝し一年のくざりをつけたい。

少年隊等は夜の9時30分頃から集まつて感謝と総締め、ハリのセレモニーと 除夜の鐘の終ると新年の挨拶を交し歌を斉唱し解散するのも楽しい。

除夜の鐘 について

都会生活の周囲のあわただしさに落ちつきを失い勝である。華やかな外面の動きに魅せられ勝である。ノツのものをみつめて味うことは人間の生活を内面的に落ちつきのある生活訓練もいえる。ものゝ底に流れる大きな力を感じる機会も大切である。琴の素材である桐にしては 鉄道の活線 工場地帯に育つたものは妙音を望み得ない 物静か

な山寺等餘音絶々無心の響きが木目Kしみ込んでゐるのが極上の素材といひ。さくしK意味で除夜の鐘も味いといひ。

除夜の鐘の意義 夜も更けて除夜の鐘の響が聞えてくる。

108の鐘が鳴られる。その108とは
(眼(見る)耳(聞く)鼻、舌 意(心)) → ぎ難しいことは抜いて 身を
(老 声 香、味 觸 法) わずらわし、心を悩ます精神
作用は悪人よつて生じ悪しき行



為をなし苦を招くといひ。その主なもの 自己愛或は自己関心、いかり、愚痴 我執の心等の根本煩惱が108あると教えられるがこの煩惱を覚醒せしめる意図の下K行はれるのである。

15日カブの枅つき と鏡餅

平安時代から初められ 二重おKして仏壇 神棚、床の向等に飾られ今その根元をくずねて見ゆ(別紙)

チーフリングのプレゼント

